

## I . 一般的なゲームの紹介

### I・1 ゲームの形式

フロントボールは、一対一の二名で行われる。個人戦である。

### I . 2 ゲームの詳細

フロントボールは、左右の手（開いても閉じた状態でも）によって行われるスポーツである。ボールゲームの様式であり、ボールがプレイヤーによって（壁に）打たれるたびに、または サーブの際 または、打ち合いの最中には、定められたゾーン（有効ゾーン=ZONE VALIDE）内（フロンティ=FRONTIS と呼ばれるマークされたラインの内側）にボールが触らなければならない。ボールが 壁に触る前に 対戦者は ボールを打つことはできない。

ゲーム中は、2人の対戦者のうちの片方がボールを打ち返せなかった場合 または、ゾーン内に打ち返せなくなるまで続けられる。 ボールがフロンティに当たった後、プレイヤーは、ボレー（バウンドなし） または 床へのワンバウンドで 打ち返すことが可能である。

### I . 3 目的

目的は、ボールを打ちながら 得点し、勝利することである。同様に ライバルがコート内に ボールを打ち続けられなくなるまで 続ける必要がある。

### I . 4 サーブ

サーブは、中央に定められたサービスゾーンの中で、正面手前のラインから行われる。プレイヤーは、このゾーンの範囲内で、弾みをつける（助走）も可能である。

サーブの際、 サービスゾーンを足が出る前に、ボールを打っていなければいけない。したがって、ボールを打つ際には、プレイヤーの足がこのゾーンの範囲内にあること。サーブの前にボールをバウンドさせることは、可能である

ボールは、有効ゾーンの中（水平線ライン、

### I . 5 得失点

プレイヤーは、ボールがフロンティまたは床の有効ラインから出た場合 失点する。プレー中、ボールがフロンティ、または床（中央ライン=la ligne médiane を除く）のラインにタッチした場合は、フォルト とされる。得点は、サーブをしたか否かにかかわらず得られる。

### I . 6 スコア

試合は、20点先取で行われる。

## I. 7 休憩

試合中 それぞれのプレイヤーは、最大2ピリオド（各々一分間の）休憩を願い出ることができる。

## II. 試合場とその他について

### II. 1 試合場の寸法

壁の寸法

床の寸法

### II. 2 ゲームゾーンの認識

フロントボールのコートは、彩色したラインか または 最低5センチメートル幅の粘着テープによって 床を認識する。

フロンティと床のラインにタッチしたボールは フォルトとされる。

### II. 3 グローブと保護

フロントボールは、素手によってゲームをすることができる。しかしながら、プレイヤーによって 保護的なグローブまたは他のプロテクションを審判の監修の下、 使用することができる。他の場合として、ボールを打つためにより大きな力を与える効果のある異様な大きさ、考慮されるべきグローブは 認められない。 保護めがねの使用は、可能である。

### II. 4 審判

公的な試合では 2人の審判が奨励される。

主審

副審

得点についての 係争の場合は 決定権を有する主審の判断に従う。